



「戯曲 オムレツ・ハウス」

第二話 若いふたり

作・雨宮 大智

「オムレツ・ハウス 第二話 若いふたり」

対象..中学生～大学生・一般向け

上演時間..十五分程度

登場人物

山谷 静	(四十六才、女性)	..レストランのオーナー
鳥丸 大吉	(四十二才、男性)	..コック長
富沢 よう子	(二十一才、女性)	..コック見習い
中川 大和	(二十五才、男性)	..ウェイター
田中 真	(三十一才、男性)	..お客・デザイナー
吉永 英子	(二十一才、女性)	..お客・編集者見習い

舞台しもてから、田中と英子が入つてくる。

英子 .. わたし、こんな高級そなお店は初めて。

田中 .. 僕の取引先なんだ。僕のつくったスタンプカードを使ってもらつていいんだよ。

英子 .. そうなのね。

田中 .. こんばんば。デザイナーの田中です。

中川 .. いらっしゃいませ。ああ、田中さん、今日はプライベートですか？

田中 .. はい。今日はお密として来ました。

中川 .. ありがとうございます。どうぞ、こちらへ。

一名さま、ご案内。

舞台中央のホールへ、中川が二人を案内する。

中川 .. こちらがメニューになります。

注文がお決まりになりましたら、お呼びくださいませ。

英子 .. ありがとうございます。

田中 .. わて、何にしようか。

英子 .. こんなオシャレなお店なら、ドレスアップしてくれば良かつたわ。

田中 .. 今の服装でも大丈夫だよ。

今日はちょっと奮発してみたんだ。

フルコースにしてみよつか。初めてだけど。

英子 .. お任せするわ。

田中 .. ジゃあ、お肉料理のコースを頼もうか。

英子 .. はい。

田中 .. すいません、注文をお願いします。

中川 .. はい、ただいま。
お決まりですか？

田中 .. Aコース、お肉のコース料理をふたり。

中川 .. かしこまりました。Aコースがおふたつですね。
しばらく、お待ちください。

中川が舞台中央から、舞台かみてのキッチンへと移動する。

中川 .. オーダー入りました。Aコースがお二つ。

鳥丸 .. Aコース、お二つ。

中川 .. 若いふたりのデートですね。
いやー、うらやましいな。

富沢 .. どんな方？

中川 .. ほり、この間スタンプカードを作つてもらつた、田中なんだよ。

富沢 .. 田中さん、彼女がいたのね。わたしショック。

鳥丸
…
彼女連れか。
田中さんも隅に掛けないじやないか。

中川
…
ウチのレストランをデート先に選んでくれるなんてうれしいね。

さて、料理のフルコースは……。

(ひと息に)

前菜から「アボカドのソース添えの「コンボシシ」」

スリノカニイヘリニ勝とほうれん草のホタリシニカハチーの仕立て

「ジャガイモのマースリーヌとシャンピニオンのロースト添え」

デザートが「リングのムース完熟梅のクラッショゼリーのせ」ですね。

さあ、ちやつちやと作つちやいましゅー

英子　.. こんどの八月号、写真が心配なんです。

解像度が余り高くなかったから。

田中　…　ディスカバーのページ？

英子
..
はい。

田中
…
あの写真のサイズなら、問題ないと思うよ。

レーザープリンタでの出力は大丈夫だつたんでしょ?

英子　…大丈夫だと思います。

田中：英子さんの会社のレーザープリンタなら、よく分かるはずだよ。

英子 .. そうなんですね。

中川がキッチンから舞台中央の客席へ、料理を運んでくる。

中川 .. お待たせいたしました。

「といむわいじと桃のロンボジション」です。

英子 .. わあ、美味しいやつ。

田中 .. 隨分と彩りがきれいだね。夏らしいな。

中川 .. 夏をイメージした一品でござります。どうぞ、じゅうぐり。

英子 .. それでは、いただきます。

田中 .. いただきます。

英子あの、わたし会社を辞めようと思いつんです。

田中 .. どうしたの？ 話してみて。

英子 .. はい。上司とうまくいかなくて。

田中 .. 英子さんいじくないなあ。上司って、中村さんでしょ。

英子さんのが折れる所は折れなくちゃ。

英子 .. そりですよね。わたしが強く出てもどうしようもなくて。

田中 .. そうだね。強く出ないほうが、普通だらうから。

英子さんなら、大丈夫だよ。

英子 .. なんだか、話したらスッとした。

今日は誘ってくれて、本当にありがとうございました。

田中 .. 僕も、英子さんの笑顔が見れて良かったよ。

お、スープが来たみたいだ。

中川がトレイにスープを運んでくる。

中川 .. 「イベリコ豚とほうれん草のポタージュ カプチーノ仕立て」でござります。

英子 .. ありがとうございます。

田中 .. ありがとうございます。いい香りだね。

中川 .. どうぞ、どうぞ。

中川が舞台かみてのキッチンへと入っていく。

富沢 .. いいなあ。田中さん、デザイナーでしょ。かつこいいよね。

鳥丸 .. デザイナーは、憧れるな。

舞台かみてから、山谷オーナーが入ってくる。

山谷 .. お疲れさま。今日のお客さまの入りはどうかしら。

中川 .. デザイナーの田中さんがいらっしゃっております。

山谷 .. 野上印刷の田中さん? この前のスタンプカードのお礼を書つてこなくちや。

中川 .. これから、メインの肉料理を運ぶ所なんです。

山谷 .. そう。なり、わたしも一緒に行きますね。

中川 .. では、伺いましょう。

中川と山谷が、揃つて舞台中央のホールへと向かう。

中川 .. お待たせいたしました。

「鹿肉のメダイヨン フランボワーズ赤ワインソース
ジャガイモのマースリーヌとシャンピニオンのロースト添え」でござこま。

英子 .. 美味しいそう! でも長い名前ね。

中川 .. どうぞ、「鹿肉のメダイヨン フランボワーズ赤ワインソース
ジャガイモのマースリーヌとシャンピニオンのロースト添え」を
お召し上がり下せませ。

山谷 .. 田中さん、本日はご来店いただきまして、どうもありがとうございます。

愉しんでいただいておりますでしょうか?

田中 .. こんばんは、山谷オーナー。

本当に美味しい料理で、正直驚きました。

山谷 .. お褒めの言葉、ありがとうございます。

今日はお友達連れなんですね。

英子 .. いつも、初めまして。

編集者見習いの吉永英子と申します。
どの料理も、美味しいものばかりで……。

今日は来て良かつた。

山谷 .. 喜んでいただいて、嬉しい限りです。

それでは、引き続きお愉しみ下さいませ。

英子 .. どうもありがとうございました。

田中 .. 今の方が、このレストランのオーナーの山谷静さんだよ。

英子 .. そうなんですね。美人さんですね。

わたし、今日来て良かつたです。仕事の相談にも乗つてもらえて。

田中 .. 僕も連れてきて良かつたよ。

仕事の話なら、いくらでも相談に乗るよ。いつでも言ってね。

英子 .. はい。

中川 .. 中川が舞台中央の客席に入つてくる。

中川 .. お待たせいたしました。

デザートの「リンゴのムース完熟梅のクラッシュゼリーのせ」でどうぞ。

料理は以上です。どうぞ、お召し上がりくださいませ。

田中 .. 美味しそうな彩りだね。

英子 .. ん！ 美味しい。

中川 .. ありがとうございます。

えりのぞ、じゅつくり。

田中 .. 英子さん。僕と、お付き合いをして欲しいんだ。

僕じゃ、ダメかな？

英子 .. ありがとうございます。わたくしらもお願いします。

おゆきゆきして下さい。

田中 .. 思い切って、言って良かった。

明日から、また頑張れる気がするよ。

英子 .. そうですね。

田中 .. それじゃ、食べ終わったら、後は帰ろうか。

英子 .. はい！

舞台じもての会計所の方へと歩き出す一人。

山谷オーナーが、キヤツシャーで会計を行う。

山谷 .. 今日はお越しいただき、ありがとうございます。

田中 .. 美味しいお料理で、本当に驚きました。

それから、僕たち付き合うことになったんですね。

思い出に残る日になりました。ありがとうございました。

山谷 .. 田中さんの新しい角立ちの舞台となれて、本当に嬉しく思います。

有難うございました。

田中 .. また来ます。今度はクリスマスかな。

山谷 .. いつでもお待ちしておりますよ。

舞台しかもてのキヤッシャーから離れ、舞台袖へとはける一人。

山谷 .. ご来店、ありがとうございましたー！

(結)